

# 令和元年度 会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 H30	前年度自己点検及び改善すべき事項 H30	①評価概要 H30	評価 H30	②改善事項 H30	会議開催回数 R1	③今年度の活動内容 R1	④自己点検及び改善すべき事項 R1	評価者	⑤評価概要 R1	⑥評価 R1	⑦改善事項 R1	
1	主管会議	校長	総務・企画係	定例会議15回、臨時会議を2回開催し、適切に審議され実施できた。	H30年度より会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態に変更したため、紙の削減ができ経費の節約が図れた。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	良好である。	A		27	定例会議14回、臨時会議を12回、持ち帰り会議を1回開催し、適切に審議され実施できた。	会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態のため、紙の削減ができ経費の節約が図れた。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	吉村教授	活動状況は良好である。	A	特になし	
2	運営会議	校長	総務・企画係	定例会議15回、臨時会議を4回開催し、適切に協議され実施できた。	H30年度より会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態に変更したため、紙の削減ができ経費の節約が図れた。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	良好である。	A		18	定例会議14回、臨時会議を4回開催し、適切に協議され実施できた。	会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態のため、紙の削減ができ経費の節約が図れた。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	吉村教授	活動状況は良好である。	A	第12回運営会議(合格判定):2/20木曜日のように定例の水曜日以外の会議については、構成メンバーが授業で出席できないことも多いので、会議内容を極力予定の合格判定に収まるべきである(緊急を要する議題がある場合は除く)。	
3	スパイラルアップ会議	校長	総務・企画係	適切に審議され実施できた。	特になし	活動状況は良好である。	A		1	適切に審議され実施できた。	特になし	山本学生主事	活動は良好である。	A		
4	教務会議	教務主事	教務係	Webシラバスの運用やMOCCIに対応したカリキュラムの検討、Office365を活用した授業時間割の作成、オープンキャンパスや中学校訪問など入学志願者の確保に向けた広報活動等を中心に行った。仮進級学生の単位取得状況を担任にも提供し情報の共有を図るとともに、該当学生に対する指導や追認試験に関する申合せを決定した。また、平成31年度版から教職員用と保護者用の二種類の年間行事予定表を作成し、学外HPには保護者用を掲載する方向で進めている。	現行の成績処理システムCampus Assiatのシステム更新及び学生情報統合システムKOREDAの本格運用に向けての進捗状況、今後の学内対応等について学内周知が望まれる。	学生情報統合システムKOREDAの本格運用に向けての進捗状況、今後の学内対応等について学内周知が望まれる。	C	学生情報統合システムKOREDAの本格運用に向けての進捗状況、今後の学内対応等について学内周知が望まれる。	28	定例の教務会議を28回実施し、メール会議を含めると40回以上実施した。今年度の教育AP事業が終了となるため、授業参観は、前期及び後期ともに外部からの参加を受け入れて成果を公開した。また、新カリの順次移行に伴い、Webシラバスの運用やMOCCIに対応したカリキュラムの検討、旧カリから新カリへの変更、Office365を活用した授業時間割の作成、オープンキャンパスや中学校訪問、入試説明会など入学志願者の確保に向けた広報活動等を数多く行った。昨年度に比べて、退学者は半数以下に減少し、受検倍率は、平均2.10となった。	仮進級学生の単位取得状況を担任にも提供し、情報の共有を図るとともに、該当学生に対する指導や追認試験に関する申合せにしたがって実施した。仮進級者については、前期までの完了を基本とした。また、現行の成績処理システムCampus Assiatのシステム更新及び学生情報統合システムKOREDAの本格運用に向けて、教職員の負担軽減を図りながら対応する必要がある。	山本学生主事	活動は良好である。	A		
4	-1 FD活動推進会議	教務主事	教務係	授業参観週間(前後期に1週間)の設置、FD講演会2回(前期テーマ「MOCCIにおける実験・実習能力および分野別横断的な評価方法について」、後期テーマ「新たな教育方法と授業改善への継続的な取り組み」)を実施した。前期授業参観後に授業運営等に関する討議が各学科で実施され、その報告書も全学科から提出済みである。	授業参観やFD講演会に対する教員参加率は増加していないものの、授業参観前に教育APで実施された学生アンケート結果を配布、周知するなど、活動の可視化やスパイラルアップへの流れはできつつある。	活動は良好である	A	特になし	2	授業参観週間(前後期に1週間)の設置、FD講演会2回を実施した。今年度の教育AP事業が終了となるため、授業参観は、前期及び後期ともに外部からの参加を受け入れて成果を公開した。また、後期のFD講演会では、明治高専の学年縦断・学科横断的なチームの活動授業(CO+work事業)の実践を外部講師から報告され、学びの質の変化に気づくFD活動も成った。	授業参観やFD講演会に対する教員参加率は増加していないものの、授業参観前に教育APで実施された学生アンケート結果を配布、周知するなど、活動の可視化やスパイラルアップへの流れはできつつある。今後は、学生からの反応をMoodle/Office365を用いて収集して授業改善に繋げる実践例を取り上げる必要がある。	山本学生主事	活動は良好である。	A		
5	専攻科会議	専攻科長	教務係	定常的な専攻科運営に加え、入試方法の改善、JABEE継続の検討、特別変更届への対応、特別研究1英語発表等を実施した。検討予定であった大学との共同教育(連携教育プログラム)についても、豊橋技術科学大学との打ち合わせを重ね、入学募集要項表を作成した。	活動状況は良好である。本年度については、これまでの活動を継続するとともに、引き続き連携教育プログラムの詳細を検討し、決定する。	活動状況は良好である	A		12	定常的な専攻科運営に加え、入試方法の改善、特別適用の変更届への対応、および特別研究1の英語発表等を実施した。また、継続課題であったJABEEプログラムについては、本年度をもって終了することを決定した。豊橋技術科学大学との「先端融合テクノロジー連携教育プログラム」については、具体的に教育課程を検討し、令和2年度以降入学生を対象とした連携教育プログラム教育課程を定めた。	活動状況は良好である。本年度は、これまでの活動を継続するとともに、「先端融合テクノロジー連携教育プログラム」を実施的な観点から見直し、課題となる事項があれば適宜検討し修正を図る。	中島教務主事	活動状況は良好である。	A	特になし。	
6	学生会議	学生主事	学生係	予定された学生会行事の実施や、各種活躍した学生への表彰を実施し、学生の活躍に関する事業について審議のうえ対応した。懲戒件数は28年度33件から29年度7件30年度は4件(5人)と減少傾向であった。交通事故は28年度35件から29年度28件、30年度も28件と同数となった。紛失盗難が28年度5件から29年度16件と大幅増となったが、30年度は8件と減少できた。防犯や盗難への抑止となるよう、伊吹出入口防犯カメラ設置に続き、第1体育館入口、6号館女子トイレ付近にもカメラの設置をした。	会議は良好に実施できた。30年度は年間約30件発生する交通安全指導のさらなる充実、課外活動支援と教員の業務負担軽減についての継続的検討が期待される。	活動状況は良好である。交通安全指導のさらなる充実、課外活動支援と教員の業務負担軽減についての継続的検討が期待される。	A		定例会議29回 臨時会議7回	予定通り学生会行事の実施や、各種学生表彰を実施し、学生の表彰に関する事業について審議のうえ対応した。懲戒件数は28年度33件から29年度7件、30年度は4件(5人)と減少傾向であった。交通事故は28年度35件、29年度28件、30年度も28件であったが、R1年度は16件と大きく減少させることができた。紛失盗難が29年度16件、30年度は8件、R1年度は10件であり殆どが紛失であった。防犯や盗難への抑止となるよう、防犯カメラの設置を、伊吹出入口、第1体育館出入口、6号館女子トイレ付近に加え、R1年度は伊吹2Fにもカメラの設置をした。	会議は全て良好に実施できた。R1年度は懲戒指導者が増えたことが気になった。内容としては、自動車免許に関する書類の未提出者に厳しく指導を行なった。7名を懲戒指導した。また、傘の無断借用をした学生5名についても厳しく指導したことが挙げられる。次年度は自動車免許取得や通学に関する指導を早い段階で実施したい。交通事故関係では例年より大幅に減らすことができたため、引き続き交通安全活動を実施していく。課外活動や各種コンテストで活躍する学生達に対しては、その支援の仕方についても継続して検討していく。また、それに伴う教員の業務負担についても引き続き対策を考えていく。	中島教務主事	活動状況は良好である。	A	特になし。	
7	寮務会議	寮務主事	寮務係	寮務会議、寮生行事は予定通り行われた。退寮指導を4名、停寮指導を15名に対して行った。女子寮の居室配置の見直し(同室の増設など)、女子寮快進進の向上を図った。温水洗浄浄器は全洋室に設置され、試行であったウォーターサーバーも本設置となり、男子寮乾燥機使用を無料とした。インフルエンザ予防接種を学内で実施し、利用者は前年比約1.5倍となった。定員超過が予想された女子寮において、退寮対象者への早めの情報提供に努めた。また、寮務会議委員の業務負担軽減のため、寮棟巡回を朝のみとした。	飲酒、喫煙に関する指導件数に改善が見られず、更なる指導上の工夫が必要である。	活動状況は良好である	A		27	寮務会議、寮生行事は予定通り行われた。退寮指導を4名、停寮指導を10名に対して行った。女子寮の指導内容の見直し(談話室の使用制限、点検や掃除のやり直し)を実施した。後期には寮の改修工事が始まった。男子寮棟の学年・人員配置を見直し(0寮への3年生居住)、また、有料であったA寮南側の洗濯乾燥機を無料化する等、寮生の生活環境の改善を図った。さらに、本年度の第1女子寮改修が決定し、それに伴う大幅な定員超過が予想される。改修後の寮を女子寮化する。また、退寮対象者への放逐と情報提供に努めた。また、教員の償還負担軽減のため、新たに(名計2名)の男子寮当直を担当できる学寮指導員を採用した。	寮務会議委員の業務負担軽減の為、総会や行事等の実施時間の変更や短縮をいっそう進める必要がある。	和田教務主事	寮務の活動は良好である	A	特になし	
8	将来計画委員会	教務主事	総務・企画係	計画通り開催され、外部評価の実施方法、会議・委員会等における教員の負担軽減等についての検討が行われた。具体的には専攻科運営規程をはじめとする関連規程において、一般科目からの選出委員を2名から1名に変更することが承認された。	機構本部から教員定員削減の指示がある状況下で、学校単独での方針の決定や中長期的な展望は行いには、難しい状況にある。	活動状況は良好である。	A		4	計画通り開催され、今年度は教員評価の大幅な見直しを行うWGを立ち上げた。従来の教育面、管理運営面、研究面の評価軸から、教育・運営面、研究面に大別し、細かな指標を大きく見直した。また、一般科と専門科の合計(教育・運営面+研究面)がほぼ同じになるように、講師、准教授、教授の昇進のポイントを設定した。さらに、専門基礎(応用物理、応用数学)グループの積極的な解消など、案件を検討し、次年度に実施し改善することとした。また、教員の業務軽減、勤務形態等についての検討が行われた。	第4期中期目標・中期計画終了時の教員特定員削減の中で、限られた人的資源を活用しつつ、ICT機器を活用した業務の効率化などが急務となっている。	中島教務主事	活動状況は良好である。	A	特になし。	
9	財務・施設委員会	校長	財務係・施設係	財務・施設委員会の主な活動内容(開催回数4回) ●第1回①平成29年度決算について②平成29年度校長教員経費の決算について③平成30年度予算配分(案)について④平成31年度予算要求事業(施設整備費関係)について⑤平成30年度実施事業(施設整備費補助金事業・差繕事業)について⑥建築学棟改修工事期間中の居室等について⑦その他(高専教育充実設備費について) ●第2回①平成31年度予算配分方針(案)等について②平成30年度施設整備費補助金事業・営繕事業進捗状況及び平成30年度追加予算事業について③その他①平成30年度高専と大学の共同教育プログラムの構築支援校の採択結果について②暖房期間について ●第3回①平成31年度予算配分審査(要求ヒアリング)②平成31年度施設整備費補助金実施予定事業について③2020年度施設整備費概算要求事業について ●第4回①平成31年度予算配分について②設備整備マスタープランの策定について③2019年度教員室等の継続使用(不動産使用許可)及び冷暖房機器の継続使用について	適切に審議され、実施された。	適切に審議され、各事業が実施された。	A		4	財務・施設委員会の主な活動内容(開催回数4回) ●第1回①平成30年度決算について②平成30年度校長教員経費の決算について③令和元年度予算配分(案)について④令和2年度予算要求事業(施設整備費関係)について⑤令和2年度実施事業(施設整備費補助金事業・差繕事業)について⑥寮務・図書館改修工事期間中の移転先について⑦その他(高専教育充実設備費について、国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画(個別計画)2018、教員室等の使用申請)について、連携教育プログラム実施のための施設整備) ●第2回①令和元年度校長教員経費について②令和2年度予算配分方針(案)等について③令和元年度施設整備費補助金事業・営繕事業進捗状況について④令和2年度施設整備費概算要求について⑤生活関連施設改善要望(男女共同参画推進室より)について⑥その他(令和元年度補正予算にかかるとの採択事業の内示について) ●第3回①令和2年度予算配分審査(要求ヒアリング)②令和元年度施設整備費補助金(補正予算)事業について③1号館、女子寮改修工事期間中の移転先について④その他(女性教員比率向上のためのポジティブアクションについて) ●第4回①令和2年度予算配分について②令和2年度 教員室等の継続使用(不動産使用許可)及び冷暖房機器の継続使用について③報告事項(令和3年度施設整備費概算要求事業について)	適切に審議され、各事業が実施された。	施設整備等の予算が充当され、それに伴う活動は良好である。	和田教務主事	活動状況は良好である。	A	特になし
10	入試運営委員会	教務主事	教務係	当初の計画通り、開催された。主な審議事項は、専攻科学力検査による選抜方法の変更である。具体的には、判定項目として従来から実施している数学、英語に加え、高専4年次に相当する専門科目の評価を反映した調査書を追加した。また、英語模範解答方法として従来から採用しているTOEICスコアに加え、TOEFL iBTスコアの選択も可能にした。以上の変更は2020年度専攻科入試から適用される。	専攻科学力選抜方法の変更により、数学、英語だけでなく、専門分野の能力も加味されることになり、よりバランスの取れた選抜が実施できる見通しである。	専攻科学力選抜方法について、よりバランスの取れた選抜が実施できる見通しであるなど、活動状況は良好である。	A		7	臨時の会議(1回)を含めて、合計7回の会議を実施した。本科1年次大学者選抜(推薦および学力)については、大きな変更はない。帰国子女特別選抜については、インターネットによる面接方式を継続したが、台高からの帰国子女は、本年に受検した。編入学生については、学業成績が合否判定指標に明確に反映されていないことと、面接の評価指標に組み込み、配点についても見直し、専攻科入試については、大きな変更はなく実施された。なお、JABEE適用は2019年度で終了である。	適切に審議され、各事業が実施された。また、編入学生の募集の基本的な考え方として、法定定員(40名)を下回った場合には募集することとし、年度当初には、募集の有無が定員枠の観点からは自動的に決まることになる。なお、転科についても同様の考え方から、法定定員を満たしている場合には、転科を認めないことになる。	中島教務主事	活動状況は良好である。	A	特になし。	
11	広報委員会	学生主事	総務・企画係	H30年度も前年度同様、前後期2回の対面会議を実施した。確認事項等が必要が生じたとき、メール審議にて確認した。また、本校の強み及び弱みの補強策について、今年度HPを更新した。内容として、トップページに「KOREN(高専)4.0イノベーション事業」教育AP事業・グローバル高専拠点事業についてパナーを開発し、各事業についての情報を発信した。	KOREN(高専)4.0イノベーション事業、教育AP事業、グローバル高専拠点事業、全国高専フォーラム開催など、本校が関連する各種事業を中心に、HP並びに冊子を利用した広報活動を展開した。HP更新や掲載内容に関する各種意見が寄せられるたび、全学科・全事務部局から構成される委員にメール審議形式で情報共有し、合理的な対応を実施している。	2回の対面会議に加えて適宜メール審議が行われ、活動状況は良好である。また、昨年度指摘された改善事項については、強み4HP等で情報発信された。	A		定例会議2回 WG2回	R1年度は、前期6月、後期12月、年間計2回の会議を実施した。また、ホームページの更新に向け、ミーティンググループを立ち上げた。R1年度は外部の動画機関への広報活動強化を図った。H30年度は年間21件であったが、今年度は年間で93件の外部報道機関への広報活動を実施した。また、中部経済新聞に岐阜高専が教育9名による研究シーズを回にわたり連載し、企業関係者や自治体関係者に対し情報発信した。HPの更新については、R2年度に向けホームページの刷新とリニューアルする方向で検討し作業を進めた。また、ホームページの更新が今後も容易にできるように、HP担当委員と業者との間で確認もなされた。	R1年度は、これまでの活動を継続するとともに、「先端融合テクノロジー連携教育プログラム」を実施的な観点から見直し、課題となる事項があれば適宜検討し修正を図る。	所教授	HPの更新以外は改善が進んでいる。広報委員長を交替することにより、この改善が進むことが望ましい。	C	高専だよりリンクなど、より事務職員による学内での直接処理が望まれる。例としてAPのホームページの作成や教育後援会のホームページの更新は全て所が日々実施している。	
12	人事委員会	校長	総務・企画係	採用・昇任等の審議を実施した。	適切に審議され、実施した。	適切に実施されている。	A		16	採用・昇任等の審議を実施した。	適切に審議され、実施した。	所教授	良好である。	A		

令和元年度 会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 H30	前年度自己点検及び改善すべき事項 H30	①評価概要 H30	評価 H30	②改善事項 H30	会議開催回数 R1	③今年度の活動内容 R1	④自己点検及び改善すべき事項 R1	評価者	⑤評価概要 R1	⑥評価 R1	⑦改善事項 R1
13	安全衛生委員会	校長	総務・企画係 契約係 施設係	毎月の衛生に関する事項と、9月に防災に関する次の事項を審議した。 ・職場の安全衛生と作業環境の確保(職場の安全・衛生監視等) ・健康管理(熱中症の予防講習会、熱中症予防についての注意喚起) ・健康増進の実施・安全衛生教育の実施(救急法講習会等) ・防災備品の充実 ・ストレスチェックの実施(外部委託)	適切に審議され、実施した。	適切に実施されている。	A		13	毎月の衛生に関する事項と、9月に防災に関する次の事項を審議した。 ・職場の安全衛生と作業環境の確保(職場の安全・衛生監視等) ・健康管理(熱中症の予防講習会、熱中症予防についての注意喚起) ・健康増進の実施・安全衛生教育の実施(救急法講習会等) ・防災備品の充実 ・ストレスチェックの実施(外部委託)	適切に審議され、実施した。	所教授	良好である。	A	
14	点検評価・フォローアップ委員会	委員長	総務・企画係	①H30年度年度計画の達成状況を点検評価(中期計画WG) ②H30年度学習評価フォローアップ点検の基本方針を策定(学習評価フォローアップWG) ③H30年度授業アンケート結果の分析(学習評価フォローアップWG) ④H30年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度を調査(学習評価フォローアップWG) ⑤点検評価・フォローアップ委員会の学内向け掲示板のレイアウトを刷新した。 <a href="http://www.cc.gifu-u.ac.jp/gakunaiyou/followup/followup.html">http://www.cc.gifu-u.ac.jp/gakunaiyou/followup/followup.html</a>	特になし	活動は良好である。	A		5	①R01年度年度計画の達成状況を点検評価(中期計画WG) ②R01年度学習評価フォローアップ点検の基本方針を策定(学習評価フォローアップWG) ③R01年度授業アンケート結果の分析(学習評価フォローアップWG) ④R01年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度を調査(学習評価フォローアップWG) ⑤岐阜高専の規程に基づく自己点検・評価を実施した(自己点検・評価実施WG) ⑥令和2年度受審予定の機関別認証評価の準備をした(自己点検・評価実施WG) ⑦5月の参与会に臨んで、H29とH30年度についての外部評価を実施、とりまとめ点検した(自己点検・評価実施WG)	活動は良好である。	北川研究主事	活動状況は良好である。	A	特になし
14	-1 中期計画WG	委員長	総務・企画係	①親委員会である『点検評価・フォローアップ委員会』の①に示すように実施した。	特になし	活動は良好である。	A		1	①親委員会の点検評価・フォローアップ委員会の実施事項の①にあるようにR01年度の中期計画の達成状況を点検評価した。	活動は良好である。	北川研究主事	活動状況は良好である。	A	特になし
14	-2 自己点検・評価実施WG	委員長	総務・企画係	①『内部質保証システム構築』の観点から岐阜高専独自の自己点検・評価規程(案)及び同基準と項目についての内規(案)を策定し、主管会議・運営会議に提案し成案された。 <a href="http://www.cc.gifu-u.ac.jp/gakunaiyou/shomu/2-21-2.pdf">http://www.cc.gifu-u.ac.jp/gakunaiyou/shomu/2-21-2.pdf</a> <a href="http://www.cc.gifu-u.ac.jp/gakunaiyou/shomu/2-21-3.pdf">http://www.cc.gifu-u.ac.jp/gakunaiyou/shomu/2-21-3.pdf</a> ②H29・H30年度の参与会による外部評価の方法(実施は平成31年度5月)を策定した。主管会議・運営会議に提案し了解された。	特になし	活動は良好である。	A		3	①親委員会の点検評価・フォローアップ委員会の実施事項の⑤にあるように高専の規程に基づく自己点検・評価を実施した。 ②親委員会の点検評価・フォローアップ委員会の実施事項の⑥にあるように令和2年度受審予定の機関別認証評価の準備をした。 ③親委員会の点検評価・フォローアップ委員会の実施事項の⑦にあるように5月の参与会に臨んで、H29とH30年度についての外部評価を実施、とりまとめ点検した	活動は良好である。	北川研究主事	活動状況は良好である。	A	特になし
14	-3 学習評価フォローアップWG	委員長	総務・企画係	①親委員会である『点検評価・フォローアップ委員会』の②で策定した方針に準じてWGで具体的な作業を実施した。 ②H30年度の授業アンケートの取りまとめをWGで実施した。 ③親委員会である『点検評価・フォローアップ委員会』の④に示す『H30年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度調査』を実施した。	特になし	活動は良好である。	A		3	①親委員会である『点検評価・フォローアップ委員会』の②で策定した方針に準じてWGで具体的な作業を実施した。 ②R01年度の授業アンケートの取りまとめをWGで実施した。 ③親委員会である『点検評価・フォローアップ委員会』の④に示す『H30年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度調査』を実施した。	活動は良好である。	北川研究主事	活動状況は良好である。	A	特になし
15	国際交流室会議	山本	教務係	■JASSO支援を基にした短期留学生【受入】を実施した。アイオワ大学から2名、ハノーバ大学から2名、マレーシア工科大学から2名、バンドン工科大学から2名、トリノ工科大学(タシケント校)から2名、ハノイ建設大学から2名の短期留学生を受入れ、研究室での実習を行った。 ■JASSO支援を基にした短期留学生【派遣】を実施した。アイオワ大学に2名、ハノーバ大学に2名、マレーシア工科大学に3名、バンドン工科大学に2名、トリノ工科大学(タシケント校)に2名、TYK Limitedに2名を派遣し3週間の実習を行った。資金援助は外部資金JASSOの他、教育後援会の国際交流基金、同窓会若しくはからの支援を受けた。 ■長期外国人留学生長期留学生を対象とした、学内(チューター)等の懇談会、校長との懇談会など、学外(地域との交流会、現地見学旅行、ホームステイなどの各種イベント)を実施した。 ■高専に在籍する長期外国人留学生を対象の東海地区外国人留学生交流会(豊田高専主催)として豊田市近郊の文化体験・工場見学を行い、3名の学生が参加した。 ■本校学生の希望者を対象としたトビタテ留学ジャパン制度を利用した留学方法に関する講演会を実施した。 ■トビタテ留学ジャパンへの応募を検討している学生に対し、応募申請のサポートを行い、高校生コースに4名、大学生コースに3名の応募があった。なお、高校コース4名のうち3名が書類審査を通過した。 ■海外大学との長期学生受入として、電気工学科教員の研究室にシンガポール・リパブリックポリテクニクの学部生4名を5か月の長期にわたって受け入れ、研究指導を行った。また、電気工学科教員の研究室にIUTリールの学生2名を3ヶ月にわたって受け入れ、研究指導を行った。 ■昨年実施した共同セミナー-ESDPR&E: Environmental Sustainability and Disaster Prevention and Reduction, Engineering Educationの第二回を開催した。交流協定6大学から計12名の参加があった。また、本校専攻科生3名の口頭発表、本校専攻科2年生全員のポスター発表も行われた。	■JASSO支援を基にした短期留学生【受入】を実施した。アイオワ大学から2名、ハノーバ大学から2名、マレーシア工科大学から2名、バンドン工科大学から2名、トリノ工科大学(タシケント校)から2名、ハノイ建設大学から2名の短期留学生を受入れ、研究室での実習を行った。 ■JASSO支援を基にした短期留学生【派遣】を実施した。アイオワ大学に2名、ハノーバ大学に2名、マレーシア工科大学に3名、バンドン工科大学に2名、トリノ工科大学(タシケント校)に2名、TYK Limitedに2名を派遣し3週間の実習を行った。資金援助は外部資金JASSOの他、教育後援会の国際交流基金、同窓会若しくはからの支援を受けた。 ■長期外国人留学生長期留学生を対象とした、学内(チューター)等の懇談会、校長との懇談会など、学外(地域との交流会、現地見学旅行、ホームステイなどの各種イベント)を実施した。 ■高専に在籍する長期外国人留学生を対象の東海地区外国人留学生交流会(豊田高専主催)として豊田市近郊の文化体験・工場見学を行い、3名の学生が参加した。 ■本校学生の希望者を対象としたトビタテ留学ジャパン制度を利用した留学方法に関する講演会を実施した。 ■トビタテ留学ジャパンへの応募を検討している学生に対し、応募申請のサポートを行い、高校生コースに4名、大学生コースに3名の応募があった。なお、高校コース4名のうち3名が書類審査を通過した。 ■海外大学との長期学生受入として、電気工学科教員の研究室にシンガポール・リパブリックポリテクニクの学部生4名を5か月の長期にわたって受け入れ、研究指導を行った。また、電気工学科教員の研究室にIUTリールの学生2名を3ヶ月にわたって受け入れ、研究指導を行った。 ■昨年実施した共同セミナー-ESDPR&E: Environmental Sustainability and Disaster Prevention and Reduction, Engineering Educationの第二回を開催した。交流協定6大学から計12名の参加があった。また、本校専攻科生3名の口頭発表、本校専攻科2年生全員のポスター発表も行われた。	活動状況は良好である。	A		6	■JASSO支援を基にした短期留学生【受入】を実施した。ハノーバ大学から3名、マレーシア工科大学から1名、バンドン工科大学から2名、トリノ工科大学(タシケント校)から2名、ハノイ建設大学から2名、トリアセインオン大学から2名の短期留学生を受入れ、研究室での実習を行った。 ■JASSO支援を基にした短期留学生【派遣】を実施した。アイオワ大学に2名、ハノーバ大学に2名、マレーシア工科大学に2名、バンドン工科大学に2名、トリノ工科大学(タシケント校)に2名、TYK Limitedに2名を派遣し3週間の実習を行った。資金援助は外部資金JASSOの他、教育後援会の国際交流基金、同窓会若しくはからの支援を受けた。 ■シリアル未表現系人材育成プログラムの企画・運営を行った。本プログラムには13名の学生が参加し、ポインティング、マイクロソフト、MG2などのシリアル現地企業見学及び現地エンジニアとのワークショップを開いた。また、DigPen大学やグラニット高校などの学校訪問も行い、現地の学生との交流も行った。 ■海外外国人留学生長期留学生を対象とした、学内(チューター)等の懇談会、校長との懇談会など、学外(地域との交流会、現地見学旅行、ホームステイなどの各種イベント)を実施した。 ■高専に在籍する長期留学生を対象とした東海地区外国人留学生交流会(豊田高専主催)として豊田市近郊の文化体験・工場見学を行い、3名の学生が参加した。 ■本校学生の希望者を対象としたトビタテ留学ジャパン制度を利用した留学方法に関する講演会を実施した。 ■トビタテ留学ジャパンへの応募を検討している学生に対し、応募申請のサポートを行ない、高校生コースに4名、大学生コースに3名の応募があった。なお、高校コース4名のうち3名が書類審査を通過した。 ■海外大学との長期学生受入として、電気工学科教員の研究室にシンガポール・リパブリックポリテクニクの学部生4名を5か月、	■教職員の業務のバランス調整 国際交流室には専任教員が配置されていないことから、専任教員を置くなど他の業務とのバランス調整が必要であった。グローバルエンジニア育成プロジェクトによりR02年度は専任教員の雇用が計画されており、同教員を中心に雇った新たな国際交流活動の組織運営を構築して行く必要がある。 ■本校学生と短期留学生との交流 JASSO/日本学生支援機構)支援による短期留学生との交流は、研究室、学科、学生寮などで引き続き実施する。その他に「放課後トークカフェ」などの短期留学生との交流イベントを企画・運営してきたものの、イベント外での交流はあまり行われなかった。交流の深化は今後の課題にしたい。 ■海外インターンシップ、短期留学派遣 現在、海外インターンシップ、短期留学は、英国TYK Limited、バンドン工科大学(ITB)、マレーシア工科大学(UTM)、トリアセインオン大学、ハノーバ大学、アイオワ大学、トリノ工科大学(タシケント校)に加え、ベトナムの提携校、およびIUTを加えて募集をかけている。継続的な取り組みとするためには同人数の双方向交流が望まれる。そのためにJASSOなどの外部資金による派遣・受入の支援および本校の支援を継続させる必要がある。	山本学生主事	活動は十分満たしている。今後は国際交流室員の負担が大きと思われるため、教職員の業務バランスの調整に期待したい。	A	
16	人権委員会	事務部長	総務・企画係	特に問題はあがってきていない。	適切に審議され、実施した。	活動状況は良好である。	A		2	特に問題はあがってきていない。	適切に審議され、実施した。	山本学生主事	適切に実施されている。今後さらに教職員のハラスメント防止となるような調査や活動に期待したい。	A	
17	情報セキュリティ管理委員会	情報処理センター長	図書・情報係	1)情報セキュリティトップセミナーの案内を周知した。	適切に実施されている。なお、毎年年度末に開催していた情報セキュリティ推進委員会の活動報告を、翌年度の年度初めに移行したため、今年度は会議を開催していない。	情報セキュリティ管理委員会は、一般的管理業務であり、主管会議、運営会議、メディア委員会などを通して、情報セキュリティ推進委員会の活動状況、情報セキュリティ監査等の対応が適切に把握されている。	A	引き続き、情報セキュリティ推進委員会の活動を把握し、情報セキュリティ強化を進めていただきたい。	0	主管会議、運営会議などを通して、情報セキュリティ推進委員会の活動状況の把握および、情報セキュリティインシデントや情報セキュリティ監査への対応が適切に実施されていることを確認した。	適切に実施されている。	和田教務主事	情報セキュリティの活動は良好である。	A	特になし

令和元年度 会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 H30	前年度自己点検及び改善すべき事項 H30	①評価概要 H30	評価 H30	②改善事項 H30	会議開催回数 R1	③今年度の活動内容 R1	④自己点検及び改善すべき事項 R1	評価者	⑤評価概要 R1	⑥評価 R1	⑦改善事項 R1
18	情報セキュリティ推進委員会	情報処理センター長	図書・情報係	1)教職員向け情報セキュリティ教育の実施 1-1)情報セキュリティに関するe-Learning教育(ほぼ全教職員が受講) 1-2)情報セキュリティ講習会の実施(1/31) 1-3)高専機構による構造的型メール訓練 2)情報セキュリティ監室について 監室に対して指摘が2項目、注意が10項目あった。次年度対応を協議する。 3)情報セキュリティインシデントへの対応 11/2に本校学生による情報セキュリティインシデントが発生した。機構本部CSIRTへの報告を適切に処理した。 4)新IT資産管理システムによるIT資産管理調査の実施 5)情報セキュリティ人材育成事業について 年度当初に各専門学科で情報セキュリティ教育実施計画を策定し、計画に基づき実施した。	適切に実施されている。	情報セキュリティ教育、情報セキュリティ監室、情報セキュリティインシデント、IT資産管理等への対応が適切に実施されている。	A	昨年度、情報セキュリティ監室に指摘された事項を改善していただきたい。また、4月上旬に発生した個人情報に関するニューマンエラーについて、情報セキュリティ強化の観点から、留意点等を全教職員に周知していただきたい。	6	1)教職員向け情報セキュリティ教育の実施 1-1)職員向け情報セキュリティ研修の実施(5/14,16) 1-2)高専機構CSIRT教員による情報セキュリティ研修の実施(7/24) 1-3)情報セキュリティに関するe-Learning教育(11月) 1-4)高専機構による構造的型メール訓練(12月2日) 2)平成30年度情報セキュリティ監室指摘事項への対応について 1-1)研究室への無線アクセスポイントの設置を登録制にした。 1-2)部外者が出入り可能な場所の情報コンセントはプラグロックなどを行い、適切に管理することとした。 3)情報セキュリティインシデントへの対応 4月に発生した情報セキュリティインシデントについて適切に対応報告するとともに、事後対策として1-1),1-2)の情報セキュリティ研修を実施した。 4)IT資産管理調査の実施(10月) 5)情報セキュリティ人材育成事業について 5-1)年度当初に各専門学科で情報セキュリティ教育実施計画を策定し、計画に基づき実施した。 5-2)第3ブロック学生を対象とした情報セキュリティ講習会を実施した(6/28)。	活動は良好である。 ・Office365への多要素認証導入計画の策定	和田教務主事	学生および教職員向けの情報セキュリティ教育、人材育成、インシデント対応など活動は良好である。	A	特になし
19	テクノセンター運営委員会	研究主事	研究協力係	■テクノセンター全般 ・外部資金の獲得等について、科研究、共同研究、受託研究、寄附金などの情報を提供し、過去最高額(総額1,1億円)に達した(第3ブロック2年度目)。 ・学校として取り組む大型プロジェクト(教育AP、KOSEN4、0イニシアティブなど)について、関係機関(岐阜県・岐阜市・本巣市等)と調整して実施した。 ・地域連携協会の運営委員会や総会などを通じて、研究プロジェクト(成果報告や研究シーズ紹介など)や人材育成事業を推進した。 ・シンポジウムによる中核人材育成成果は、入門・5、基礎・6、アドバンス・6の合計17講座が開講され、有料開講依頼、延べ約3500名が受講した。 2019年度は中核人材育成事業開始から10年目を迎える。 ■技術開発部門 ・外部組織との連携(岐阜県農工労働部、岐阜県工業会など) ・IAMASとの連携(IoT関連の共同セミナーなど) ・高専連携クラウド推進室は2018年度で廃止されるが、オープンCAEなどの地域連携活動は継続・推進した。 ■技術教育部門 ・インターンシップ関連(本科+専攻科・国内201名、海外49名) ・ものづくり/科学技術リテラシー教育実習(単位認定者:本科49名、専攻科4名)(昨年度:計82名)	活動は良好である。 ■テクノセンター全般:良好である。 KOSEN4、0イニシアティブ事業で掲げた評価指標:技術相談件数30以上などを達成し、第4期に向けて本校の強みをさらに伸ばす工夫と克服する課題を検討する必要がある。 ■技術開発部門:良好である。 ■技術教育部門:良好である。 一昨年度の指摘事項、学校として取り組む事業については、テクノセンター委員会等で検討し、重要性や継続性に応じて取捨選択した。重要な案件については、既存の部門や推進室が中心となってプロジェクト方式で進めた。これらの教育・研究・地域連携活動のパラメータについては、引き続き優先順位などを考慮しながら、学校全体や学科、教員などとの関連性を配慮してテクノセンターとして調整する。	活動は良好である。	特になし	9	■テクノセンター全般 本年度共同研究12件、受託研究4件、技術相談31件を実施している。 KOSEN4、0イニシアティブ事業で掲げた評価指標:技術相談件数30以上を継続し、活発な産学官連携が行われた。 ■技術開発部門 テクノシンポジウム、外部資金獲得のための講演会、知財講演会を継続するとともに、岐阜県工業会等外部機関との連携を通して地域連携を推進した。 ■技術教育部門 リテラシー活動、インターンシップ事業等を通して、学生の教育活動を行うとともに地域連携を継続した。	活動は良好である。	熊崎前教務主事	良好である。	A	特になし。	
19	-1 科学技術リテラシー教育推進室	山田実	技術室	すべての学科からリテラシーのテーマが提案され、募集テーマ数は11であった。そのうち本科に8テーマ49名、専攻科テーマ数2(本科と合同)4人の応募があった。そして、本科15名に1単位、34名に2単位、専攻科4名に2単位を認定した。 ・5月22日に受講者に対しガイダンスを行った。 ・ぎふサイエンスフェスティバルには岐阜高専として7ブース出展し、活動の成果を発表した。 ・1月30日に成果発表会を行い、テーマごとにポスター発表をした。	活動は良好である。 応募者数は昨年度に比べ減少したものの、テーマ数は昨年度と同様であり、また全学科としての取り組みが行われている。 ・応募学生を増やすためには低学年へのリテラシー活動の周知と複数年わたる活動の継続が必要である。	活動は良好である。	A	1	建築学科を除く4学科からリテラシーのテーマが提案され、募集テーマ数は10であった。受講者数は本科79名、専攻科12人であった。そして、本科30名に1単位、49名に2単位、専攻科12名に2単位を認定した。 ・6月12日に受講者に対しガイダンスを行った。 ・ぎふサイエンスフェスティバルには岐阜高専として8ブース出展し、活動の成果を発表した。 ・1月29日に成果発表会を行い、テーマごとにポスター発表をした。	活動は良好である。 単位認定者数は本科生で過去最大数、専攻科生を合わせた全体でも過去最大数となり、全学年に活動が広がっている。 継続的な活動のため複数年受講する学生を増やす必要がある。 単位認定のために提出される書類に不備があり、再提出となる場合が多い。指導教員による確認および電子ファイルの改善が望まれる。	熊崎前教務主事	良好である。	A	単位認定用電子ファイルのエラーに対する改善が早急に行われるとよい。	
19	-2 若駒連携推進室	研究主事	総務・企画係	テクノセンターの若駒連携推進室は、全学同窓会「若駒会」および中核人材育成の「若駒連携事業室」、建設技術士有志会などと連携して事業を推進している。 1)若駒会設立50周年記念事業として開始された公開講座は、卒業生・教員等が講師となし計3回実施した(岐阜大学教授、大野町長、山梨大学准教授)。 2)2019年度で10年目を迎える「中核人材育成」は、入門・5、基礎・6、アドバンス・6の合計17講座が開講され、企業経験をもつニアOBが講師として参画している。今年度で有料開講に延べ約3500名に達した。 3)東海地域に在住する建設技術士有志会(約60名)と連携し、環境都市工学科の導入教育(1年生)、キャリア教育支援(4年生)などを実施し、国家資格・技術士1次試験合格者を表彰している。	活動は良好である。 ・若駒会設立50年を経過し、世代間を繋ぐ人材活用について、各学科の同窓会組織と連携しながら、効果的に実施する必要がある。2019年度は建築学科が設立50周年を迎える。	活動は良好である。	特になし	4	「若駒連携事業室」と連携し、従来の中核人材育成入門、基礎、アドバンスの3コースを継続するとともに、2020年度からの新規講座「現場からのIoT」開設に向けて、本校教員とともに準備を行った。	活動は良好である。	熊崎前教務主事	良好である。	A	特になし。	
19	-3 知的財産委員会	研究主事	研究協力係	平成30年度の知財申請は、企業との共同出願(承継)の他に、特許を受ける権利の持ち分譲渡及び出願名義人変更手続きに係る同意書の提出、審査請求、外国出願などであった。	活動は良好である(新規+審査請求対応+外国出願など)。 提出された発明等層、発明評価書に基づいて学内審査手続きを進めており、発明評価書の新規性、市場性、活用性などについては、 <b>ひまわり編纂本部などの委員を委員に</b> コア活動は良好である。 ・機器を導入して次年度6年が経過するため、メンテナンス経費を確保する必要がある。 ・本塚先生が抜けるので新しい委員を入れる検討をする。	活動は良好である。	A	9	新規審査、審査請求対応、権利消滅審議等について、適切に対応した。	活動は良好である。	熊崎前教務主事	良好である。	A	特になし。	
19	-4 機器分析室運営委員会	羽淵	研究協力係	■(機器設備の管理に関する事項) ・機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理している。今年度は、錠前取替、Arガスの交換、FT-IRの光源交換をおこなった。 ■(利用に関する事項) ・利用状況は前期488時間、後期657時間となった(集計はH29年度)。 ・専攻科の授業「材料分析工学」で分析室の機器を使用した実習を行い、学生の分析に関する学習に役立てた。	活動は良好である。 ・機器を導入して次年度6年が経過するため、メンテナンス経費を確保する必要がある。 ・本塚先生が抜けるので新しい委員を入れる検討をする。	活動は良好である。	A	特になし	1	■(機器設備の管理に関する事項) ・機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理している。今年度は、ランダム散乱分光器のCCDの修理をした。 ■(利用に関する事項) ・今年度は岐阜大学との機器共用のためのシステム構築を行った。現在は試行として予約システムが稼働している。 ・利用状況は前期444時間、後期369時間となった(集計はH30年度)	活動は良好である。 ・本塚先生の代わりに島本先生に入っていたが、機器利用の促進を図る。	熊崎前教務主事	良好である。	A	特になし。
20	メディア委員会	研究主事	図書・情報係	■図書館部門 1)利用者講習会の実施 2)ブックハンティングの実施 3)読書感想文、自由投稿文、図書だより表紙イラストのコンクール実施 4)高専祭企画展、各種イベントの開催 5)iPad、ノートPC貸出(延べ計128台) 6)図書館だより、紀要の編集・発行 ■情報処理センター部門 1)第1学年情報処理センターガイダンスの実施 2)高専統一ネットワークの運用 3)高専統一ネットワークに外れる部分の更新(web、メールサーバー) 4)IT資産管理調査の実施(AssetBase登録情報) 5)研修会等(高専フォーラム、IT人材育成、情報担当者研修ほか) 6)「情報処理教育・研究報告第46号」の発行(紀要と同時収録) 7)無線LANの試験運用(A科3、5年生対象)	活動は良好である。 ■図書館部門 1)利用者数はほぼ横ばいで推移した。今年度に引き続き、コーナーの展示頻度を上げるなどの対策を行う。 2)効率的に図書検索ができるように、OPACの利用説明を実施する(今年度は2年生全員)。 3)学生の電子ジャーナル利用促進を図る(今年度は5年生に簡易利用マニュアルを配付)。 ■情報処理センター部門 1)図書館棟改修に伴う対応(臨時図書館、サーバー室移動・演習室移動などの対応) 2)高専統一学習ネットワーク導入に向けた支援準備(本格運用:2020年度) 3)認証環境の整備とID管理のさらなる効率化 4)Office365の利用促進 5)演習室及び情報機器の管理と運用(AP事業終了後を踏まえた検討)	活動状況は良好である。	A	6	■図書館部門 1)利用者講習会の実施(第1学年対象・4月上旬) 2)ブックハンティングの実施(令和元年6月) 3)読書感想文、自由投稿文、図書だより表紙イラストのコンクール実施(自由応募形式で実施) 4)図書館だより、紀要の編集・発行(規定に従い実施) 今年度後期は改修工事となり、臨時図書館での活動であるため、高専祭企画展などが実施できなかった。 ■情報処理センター部門 1)第1学年情報処理センターガイダンスの実施 2)高専統一ネットワークの運用(無線LAN拡充など) 3)IT資産管理調査の実施(AssetBase登録情報) 4)研修会等への参加(高専フォーラム、IT人材育成、情報担当者研修ほか) 5)「情報処理教育・研究報告第47号」の発行(紀要と同時収録) 6)無線LANの運用(全学生対象) 7)昨年度の課題への対応 ①図書館棟改修に伴う対応:3月末に演習室移設を実施した。 ②高専統一学習システム(KIA)導入に向けた支援準備:各種会議において情報を収集した。 ③認証環境の整備とID管理のさらなる強化:Office365の多要素認証導入に向けて検討中である。	活動は良好である。 ■図書館部門 1)臨時図書館での運営となり、後期は限定されたサービスの実施となった。 2)図書や論文の検索講習会は、改修のため実施できず、次年度に行う。 3)読書感想文などのコンクールは、自由応募として応募数が大きく減少した。 ■情報処理センター部門 1)1号館などの改修に伴う対応(スイッチの移動などの対応) 2)高専統一学習システム(KIA)導入に向けた支援準備 3)Office365の利用促進とセキュリティ強化 4)次期演習室整備に向けた検討と関連業務	良好である。	久保田前学生主事	良好である。	A	特になし

令和元年度 会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 H30	前年度自己点検及び改善すべき事項 H30	①評価概要 H30	評価 H30	②改善事項 H30	会議開催回数 R1	③今年度の活動内容 R1	④自己点検及び改善すべき事項 R1	評価者	⑤評価概要 R1	⑥評価 R1	⑦改善事項 R1
20	IT技術管理WG	情報処理センター長	図書・情報係	1)高専統一ネットワークの仕様から外れたサーバ群(Webサーバ・教職員メールサーバ・外部DNS)の更新について高専統一ネットワークの認証サーバとの認証連携不具合への対策案を策定した。	活動は良好である。	活動状況は良好である。	A		0	1)図書館改修に伴うサーバ等の移設 2)令和2年度情報処理センター演習室更新のための情報収集および方針(案)の策定 3)教職員メールの不具合対応 4)LMS(Moodle)のクラウドへの移設	活動は良好である。 ・1号館改修に伴うネットワークスイッチ等の移設	久保田前学生主事	良好である。	A	特になし
20	アクティブラーニング推進WG	情報処理センター長	図書・情報係	・授業参観週間に合わせ、授業方向上のためのFD研修を実施した(実施回数:2回)。	活動は良好である。	活動状況は良好である。	A		5	1)授業参観週間に合わせ、授業技術研究会を実施した(実施回数:2回) 2)第3ブロックアクティブラーニング推進研究会への参加	活動は良好である。	久保田前学生主事	良好である。	A	特になし
21	学生相談室会議	麻草	学生係	・自殺予防、いじめ及びハラスメント対策として、前期に学生生活アンケートをMS方式で実施し、学級担任と連携して学生のカウンセリングに繋げた。後期は、前期のアンケート結果を基に、更なる追加調査を行い、担任と連携してカウンセリングに繋げた。 ・後期から、相談室として学習サポートルームを開設し、主に数学と物理の補習授業に対応した。 ・相談室、キャリア支援室、学習サポートルームなどを、ポスター掲示やホームページ等により学生への周知に努めた。 ・カウンセラーを2名増員したことにより、自衛と水曜が2名体制となり、学生や教員の面談希望に素早く対応できた。 ・学級担任による学生指導の一助とするため、クレバリン検査を1、3年生に実施した。 ・教職員のFD研修として、教員会議開始前の20分程度、カウンセラーによる全体研修会を4回実施した。さらに、個別案件についても、各学科会議にカウンセラーを派遣し、個別研修会を延べ回実施した。 ・1、2年生の特活で、メンタルヘルスと称して、全10クラスにカウンセラーを派遣し、学生参加型のワークショップを行った。	・適切に審議され、実施された。 ・今後増えると思われる合理的配慮を必要とする学生に対し、継続的なチーム支援の強化が求められる。 ・カウンセラー間の支援方針に齟齬があり、相談室として対応に苦慮したが、次年度以降、カウンセラーには、カウンセリングの基本方針として、誓約書を提出させることで改善を図ることになった。	良好である。	A		11	・自殺予防、いじめ及びハラスメント対策として、前期に学校生活アンケートをMS方式で実施し、学級担任と連携して学生のカウンセリングに繋げた。後期は、学校生活アンケート結果を基に作成・実施し、担任と相談室員が連携してカウンセリングに繋げた。 ・学級担任による学生指導の一助とするため、クレバリン検査を1・3年生に実施した。 ・カウンセリング予約をweb上で行うようにし、業務の効率化を図った。 ・学習サポートルームを本年実施し(34回)、主に数学と物理の補習授業に対応した。 ・相談室、キャリア支援室、学習サポートルームなどを、ポスター掲示やホームページ等により学生への周知に努めた。また、保護者に向け、高専だよりで紹介記事を掲載した。 ・教職員のFD研修として、教員会議開始前の30分程度、カウンセラーによる全体研修会を1回実施した。 ・カウンセラーに依頼し、1、2年生の特活でメンタルヘルスとコミュニケーションに関する講座(学生参加型)のワークショップを行った。	各曜日カウンセラー1名体制となった。カウンセリング業務を優先し、H30年度のように複数回の教職員FD研修会やメンタルヘルス関係講習会へ講師として派遣することは困難であった。 ・学習サポートルームを本年実施し(34回)、主に数学と物理の補習授業に対応した。 ・相談室、キャリア支援室、学習サポートルームなどを、ポスター掲示やホームページ等により学生への周知に努めた。また、保護者に向け、高専だよりで紹介記事を掲載した。 ・教職員のFD研修として、教員会議開始前の30分程度、カウンセラーによる全体研修会を1回実施した。 ・カウンセラーに依頼し、1、2年生の特活でメンタルヘルスとコミュニケーションに関する講座(学生参加型)のワークショップを行った。	久保田前学生主事	良好である。	A	特になし
22	教員会議	校長	総務・企画係	定例会議7回、臨時会議を1回開催し、適切に報告等が実施できた。	H30年度より会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態に変更したため、紙の削減ができ経費の節約が図れた。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	経費削減、進行の効率化への取り組みなど、活動状況は良好である。	A		11	定例会議6回、臨時会議を5回開催し、適切に報告等が実施できた。	会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態のため、紙の削減ができ経費の節約が図れ、業務の経費削減につながった。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	麻草前事務主事	良好である。	A	
23	学級担任会議	教務主事	教務係	計画通り開催され、担任業務の周知や課題等について検討された。また、学科別で担任間の情報交換の場としても機能した。	教職員から学生への連絡および周知方法として学内メールを積極的に使用する試みができる。少しでも、担任業務の負担軽減につながることを期待される。	良好である。	A		5	全学年の会議を4回、4年(研修旅行等)のみの会議1回を含めて、合計5回実施した。計画通り開催され、担任業務の周知や課題等について検討された。また、学科別で担任間の情報交換の場としても機能した。	教職員から学生への連絡および周知方法として学生メールを積極的に使用した。また、夏期実習リスト、就職関係など、学生係と協力し、進路指導などは教務係と連携して、担任業務の負担軽減につなげた。LMS(Moodle)やOffice365などを活用して、学生と教職員が同じプラットフォームから情報共有する更なる試みが必要である。	麻草前事務主事	良好である。	A	
24	クラブ顧問連絡会議	学生主事	学生係	例年通り年間3回のクラブ顧問連絡会議を実施した。30年度はクラブ活動で各大会やコンテストでの活躍が目立ち、経費負担が増えた。今後の対応として、32年度より学生会費を値上げする事を学生会総会で決定した。	昨年度に続き30年度も各クラブの預り金(納費)を本校で統一した通帳として財務係管理の下に運用することができた。今後各種大会やコンテストへの出場学生への支援として、経費の使用について適正な使用について見直ししていく必要があるため、学生会や教育後援会と協力して検討していく予定である。また、教員の業務負担軽減が今後の課題となっており、改善できるよう検討したいと考えている。	活動状況は良好である。	A		3	定例通り年間3回のクラブ顧問連絡会議を実施した。R1年度は、学生連のクラブ活動で各大会やコンテストでの活躍が多かった。R1年度より各種大会やコンテストへの出場学生への支援として、経費の使用について適正な使用について見直ししていく必要があるため、学生会や教育後援会と協力して支援する人数を設定するなどして調整することができた。クラブ指導上の問題点として、業務負担について検討した。その結果、各クラブの顧問が指導する日に合わせ勤務シフトの調整をするなどに対応することが決まった。	昨年度に続きR1年度も各クラブの預り金(納費)を本校で統一した通帳として財務係管理の下に運用することができた。各種大会等の学生支援については、R2年度から後援会・学生会の会費値上げが実施できるため多少の余裕はできるが、長期の各種大会開催予定地も考慮し、経費の使用について適正に使用していく必要があり、学生会や教育後援会と協力して検討していく予定である。また、クラブ指導における業務については、勤務制振りの変更などで対応ができていくかを、継続して確認していく。	麻草前事務主事	良好である。 後援会費、学生会費による適切な学生支援や、教員のクラブ指導業務に関して、継続して検討していくことが期待される。	A	
25	若駒奨学基金運用委員会	校長	総務・企画係	主管会議メンバー及び若駒会事務局教員により2月21日に委員会を開催し、表彰関係61件と助成関係34件を決定した。	活動は良好である。	表彰と助成が所定の手続きにより着実に実現され、活動状況は良好である。	A		2	6月に選考基準の改正を行い、主管会議構成員により2月20日に委員会を開催し、表彰関係48件と助成関係39件を決定した。	活動は良好である。	麻草前事務主事	良好である。	A	
26	特別支援検討委員会	学生主事	学生係	平成29年度入学生で、聴力障がい等を有する学生への対応を引き続き実施した。該当学生は第2学年に問題なく進級し、クラブ活動(卓球部)も活発に活動している。改めて委員会を開催することはなく、聴力障がいに関する配慮事項の聴めを担任や各教科担当者へ伝達する方法で継続的な支援のお問い合わせを行った。次年度第3学年に進級するため、既に新担任との面談を終えている。	聴力障がい等を有する学生については、第2学年でも問題なく学校生活を送ることができた。第3学年に進級するが、改めて委員会を開催する必要はないと思われる。保護者からも同意を得ており、これまで同様配慮事項の引継ぎを行う事で継続して支援していくつもりである。	活動状況は良好である。	A		0	平成29年度入学生で、聴力障がい等を有する学生への対応を引き続き実施した。該当学生は第3学年に問題なく進級し、クラブ活動(卓球部)も活発に活動している。H30年度末には、担任との面談会議でH31年度に向けても改めて委員会を開催する必要性がないことを確認した。これについては、本人や保護者も了解済みであり、聴力障がいに関する配慮事項の聴めを担任や各教科担当者へ伝達する方法で継続的な支援のお問い合わせを行った。次年度第4学年に進級するため、既に新担任との面談を終えている。	聴力障がい等を有する学生については、第3学年でも問題なく学校生活を送ることができた。第4学年に進級するが、改めて委員会を開催する必要はないという事を担任と確認しており、保護者からの同意も得ているため、これまで同様配慮事項の引継ぎを行う事で継続して支援していくつもりである。	所教授	良好である。	A	
27	男女共同参画推進室	鶴田	総務・企画係	1. 男女共同参画の推進およびワークライフバランスを図るための環境整備の一環として、岐阜県が運営する人材バンクに加名登録するとともに、第3ブロック協議会で情報提供し、若駒会女子部に登録依頼を行った。 2. 本校および他高専の女子トイレ盗撮をおよびその対策の実態を把握するとともに、盗撮防止対策のための改修工事の追加予算要求を行った。 3. 全教員対象に「男女共同参画の推進およびワークライフバランスを図るための環境整備」に関する意向調査を実施した。	アンケート調査結果より判明した男女共同参画の推進およびワークライフバランスを図るための環境整備に関する課題(制度周知が不徹底、制度改善)は把握できたので、それらの課題改善に向けた取り組み(情報周知方法の検討と整備、機材等への制度改善要求、OBとの連携等)が必要がある。また、女子トイレ、更衣室の盗撮防止に向けた取り組みが引き続き必要である。さらに、多様な立場の視点から意見を集めて取り組むために、性別、年齢層に配慮した室員の構成(増員)が必要である。	アンケート調査の実施など、男女共同参画推進に向けた各種の取組が行われており、活動は良好である。今後、多様な立場の委員で構成されることが期待される。	A		2	○女子学生の利用するトイレおよび更衣室に関する女子学生対象のアンケート調査を実施し教員会議で報告するとともに、女子トイレ増設および更衣室(男女)設置に関する生活圏施設改善要望をとりまとめ、財務施設委員会に提出した。 ○女性教員用更衣室の試行運用および女性教員との懇談を行い、新たな更衣室設置の検討を行った。	平成30年度に実施した全教員対象の「男女共同参画の推進およびワークライフバランスを図るための環境整備」調査結果を踏まえた制度改善については、女子トイレ、女子更衣室について防犯上の課題が持ち上がり、急ぎよ、そちらの対応を優先させる必要が生じ、後回しにせざるを得なかったが、来年度以降、引き続き推進に努める。	所教授	良好である。 防犯上の課題について、引き続き学校全体での意識改善を期待したい。	A	
28	教育AP推進室	研究主事	総務課長補佐	主な活動内容は、昨年度に引き続いて以下のようなものである。 ・本校のALとFDの実状と展望 ・ICT活用教育のスパイラルアップ、ブログ解析結果とLMSの活用 ・授業参観週間のAL授業実践、各授業のAL展開事例、LMS上の学修支援教材コンテンツ ・シニアOBと連携した企業技術者イチ押し課題のCBT作成 ・実践技術単位制度の全学展開と学修成果可視化へ向けた活用 ・専門学科のラーニングコモンズの活用 ・AP事業による講演会の実施、研究発表、ICT環境改善等 これらのAP事業については、報告書に取り纏めるとともに、3月に公開報告会、ポスター発表等が実施され、同時に、事業終了年度を迎えたKOSEN4、Oイニシアティブ事業(2課題)、グローバル事業などの報告会も行われた。	活動は良好である。 2019年度はAP事業6年目の最終年度として、ALの実践と学修成果の可視化について取り纏めるとともに、第4期における取組の継続、さらなる充実・発展を模索する必要がある。	活動状況は良好である。	A		4月から3月まで適宜メール会議を開催(本年度の推進室解散を踏まえ、AP年度の次年度以降の継続性を担保するため)	・AP最終年度に、本校の従前の高専教育体制に、ほとんど負担を掛けることなく、AP事業にて構築した「ICT活用教育支援資産」を、新年度以降も維持・発展できる体制を学内に構築できた。学生アンケートやLMSの活用状況を鑑み、学生には肯定的に捉えられており、むしろ更なる改善を要求する意見・意見を引き出したこと、それらを全教員に可視化できたことは、AP事業の最大の成果であると自己評価する。 ・改善すべき事項としては、事業終了のため無いが、上記本校の成果資産が引き続き維持・発展されることを期待している。	加藤教授	・教育AP推進室の活動成果は6年間に亘り、毎年出版された成果報告書版のみならず、外向きのWebサイトにも公開されており、活動状況は極めて良好である。獲得した経費により本校内のIT機器の設備的な充実が図られたのみならず、今後の継続的な改善が期待される制度やシステムも構築された。さらに6年間に亘る活動は、ITを活用した授業の取組についての学生・教職員の意識改革を促す結果にもなった。	A	改善事項なし。	